

祝 書道部・文学部 全国総文に出場します！

8月7日(火)から5日間、長野県で開催されます第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文祭)に、書道部と文学部が出場します。

ともに昨年度の兵庫県高等学校総合文化祭で最優秀となり今年全国大会への出場となりました。書道部は久しぶり、文学部は初めての参加となります。

書道部門は松本市で開催。8日(水)に開会式、その後交流会、9日(木)に講評会と閉会式が行われます。また7日(火)から11日(土)までの総文開催中、松本市美術館で作品展示が行われます。

文芸部門は佐久市で開催。8日(水)に開会式と文学研修、9日(木)に全体交流会と部門別交流会等、10日(金)には記念講演会や講評会等があり、続いて閉会式が行われます。

また7日(火)から11日(土)まで長野県立図書館等で文芸部誌の展示が行われます。

ともに交流が中心になりますが、頑張ってきて欲しいと思います。



大会テーマ

みすずかる信濃に若木は競い森を深める山脈(やま)渡る風に種子(たね)を拡げて



大会マスコットキャラクター【信州なび助】

県鳥であるライチョウをモチーフとしたキャラクター。長野県公式携帯サイトのキャラクターを務めていたが、自分探しの旅に出る。この度、2018信州総文祭のマスコットキャラクターとして舞い戻り、復活を果たしました。

書道部

3-A 三浦知春さん

書道部は昨年の兵庫県高校総合文化祭で三浦知春さんが全国高等学校総合文化祭推薦賞を受賞しました。(兵庫県の最優秀です。)

三浦さんの作品は篆書で、石鼓文(唐初期に鳳翔府天興県で出土した10基の花崗岩の石碑、またはそれに刻まれた文字)を臨書(手本を見ながら書いた書)したものです。

三浦さんの作品は文字数がとても多く、しかも小文字で最初は筆の扱いに苦戦しましたが、昨年の夏休みには何百字も練習を重ね、合宿では徹夜で書き続けたそうです。

そんな努力が実って昨年の最優秀賞に輝きました。



全国総文に向けても良い作品ができています。全国総文にはどうぞ自信を持って下

文学部

3-D 矢野日南子さん

兵庫県高校総合文化祭の文芸部門では、「散文」、「詩」、「短歌」、「俳句」、「表紙絵」、「文芸部誌」の6部門で応募があり、「表紙絵」を除く5部門の最優秀賞者が全国大会に出場します。

矢野さんは短歌部門で最優秀賞を受賞、今夏の全国大会への切符を手に入れました。

青春をイメージして作った作品ですが、これから私達の前に広がっていく未来や疾走感を表現するのは簡単ではなく、決められた文字数の中にどう形にするか、何度も書き直し、試行錯誤したそうです。

県総文では、「坂下る」が全て。傍観するのではない、その中へ入っていく「私」の未来がそこにあるから。」との講評を頂いています。

読めば下校の情景が浮かびます。全国総文には胸を張って参加して下さい。



スカートをはためかせては坂下る広がる世界に見えるパノラマ

